



火曜日 朝の光景

広報美化委員会は、毎週火曜日にボランティアの呼びかけをしています。活動日時は、毎朝火曜日の7時45分から7時55分までの間で、1～2年生がおひさま広場、3～6年生が運動場でボランティア活動を行っています。ボランティアとは、一般に「人の役に立つこと」と考えられています。しかし、「情けは人のためならず」という諺（ことわざ）にもあるように、「ボランティアは結果として自分自身のためになる」ということも広く知られています。文京学院大学梶原准教授の研究結果によると、「ボランティア活動を多くするほど、自分自身に恩恵を受けるし、学校に適應していると感じられます。それは、自分自身が恩恵を受ければ幸福感を感じられるからです。」と述べています。

朝から学校のために汗を流し、笑顔で「こんなに草を取りました!」と手を泥だらけにしながらかけてくれる子供たちに「ありがとう。」と感謝の気持ちを返すことができ、私自身が気持ちのよい朝を迎えることができました。



世界一古い木造住宅

アフリカ南部ザンビアの川沿いの遺跡から木造住宅の一部とみられる木材が見つかり、世界最古の47万6000年前のものと推定されました。イギリスの大学の研究チームが発表しました。当時は現生人類（ホモ・サピエンス）が出現する前のため、それより古い初期の人類が既に木工を手掛けていたと考えられています。

英メディアによると、研究チームが発見した木材2本のうち、1本には石器でくぼみが作られ、別の1本と組み合わせた際に動かないよう固定された跡があったそうです。住宅など何らかの建造物の一部とみられ、研究チームを率いるリバプール大のラリー・バーラム教授（考古学）は「当時の作り手は思った以上に私たちに似ていた。彼らは知性や想像力、技術を駆使し、それまで存在しなかったものを作った」と述べています。初期の人類が木材を使った目的は、これまでは「火をおこす」「棒で地面を掘る」といった単純な用途に限られるとみられていました。今回の発見場所はタンガニーカ湖南端の滝に近い川沿いの遺跡で、水や食料を入手しやすい環境だったため、木造住宅を建てて定住していた可能性があるといえます。ホモ・サピエンスは30万～20万年前に出現したと考えられていますが、見つかった木材はそれより前の年代のものであるため、さらに古い人類のホモ・ハイデルベルゲンシスなどが作った可能性が指摘されています。しかし、遺跡からは作り手の証拠となる「骨」が見つかっておらず、誰が作ったかは不明だそうです。

